

技委発第09-1号通達
平成21年 4月 1日

関係各位

技術委員長 阿南 喜裕
(公印省略)

2009年ルールの確認

今回の通達の国内運用は2009年（平成21年）4月1日からとしますので、内容を確認し、周知徹底をお願い致します。

1. ツリパンについて

ゆるゆるのツリパンは使用が禁止されているが、コスチュームチェック時にゆるゆるかどうかを判断するのは難しく、実際に選手がプラットフォームに出てきた時点でわかる場合が多い。
その場合、ルールブック P12 (g) ②を適用する。

ルールブック P12 (g) ②

ルール違反のもので、コスチュームチェックに合格してしまったものを着ていた場合
⇒その試技がたとえ成功していたとしても、失敗となる。しかし、間違っただのは選手の責任ではないので、成功した場合はラウンドの最後に正しい服装でやり直しができる。

選手が予備の、体にフィットしたツリパンを持っている場合は、それに着替えて再試技が可能だが、持っていない場合は、試技が出来なくなるので、結果的に失敗となる。
ただし、予備のツリパンもコスチュームチェックに合格していなければ使用できない。

2. ベンチプレスについて

ベンチプレス競技で主審から見て81cmのマークが人差し指で隠れていない場合、副審から確認できないので、ラックから外した後の場合は、直ちに「リプレイス」と言って、やり直しさせる。
初めから81cmのマークが見えている場合は、選手がラックから外す前にやり直しさせる。

3. 団体戦の得点方法について

(a) 3名以上を1チームとする。

(b) 1位から12, 9, 8, 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1点とし、以下失格者以外全員に1点を与える。

一般と、ジュニア・サブジュニアやマスターズ（以下ジュニア等とする）とのダブルエントリーの場合、ジュニア等の得点を、1位から8, 7, 6・・・（以下上記と同様）とし、一般の得点と比較して高い方の得点で計算する。

ただし、団体戦において、一般団体戦、ジュニア団体戦の様に、一般とジュニア等が完全に分けられている場合は、双方1位から12, 9, 8・・・として計算して良い。

(c) 1チーム内上位6名の得点を団体得点として計算する。

団体戦において、団体得点と同じ場合は、1位の多い方を上位とする。また更に1位の数が同じ場合は2位の多い方を上位とするという方法で以下同様に行う。

4. スクワットについて

平成20年版のルールブックでは、「ラック」の後、後ろに下がった場合も失敗の理由となるとされていたが、IPFより「失敗の理由とはならない」との解釈が出されたので、本項目を削除し、「スクワットにおける反則行為」の(j)を”「ラック」の合図の後、バーを落とすこと。”とする。

5. ベンチプレスについて

ベンチプレスでバーが胸につかない場合、3秒待ってもつかなければ「ラック」と合図をする。この場合、試技は失敗となり「1」のナンバーカードを上げる。

《問い合わせ先》

TEL 090-4140-8270

メール anany1975@yahoo.co.jp

JPA 技術委員会 阿南 喜裕